

『清語易言』の漢語語彙(4)

竹越 孝

(承前)

8. 副詞

8.1 程度

8.1.1 強度

“狠”

“狠”は5例用いられており、うち1例は単独で用いられる。

満洲語では、副詞 umesi (甚だ、頗る) に対応するものが2例、hon (甚だ、頗る) に対応するもの、nokai (甚だ、頗る) に対応するものが各1例、特に対応する語彙を持たないものが1例である。

- (1) 全然告訴狠好 (9b6) 〈umesi〉
- (2) 狠 (14a4) 〈umesi〉
- (3) 不用狠告訴 (6b1) 〈hon〉
- (4) 告訴狠容易 (8b3) 〈nokai〉
- (5) 告訴的狠大 (11a3) 〈amba〉

(2)は満洲語 umesi の発音を示す部分で用いられており、“狠”と umesi が等価と認識されていたことを示すものであろう。なお、“狠”と hon は音形が似ており、借用の可能性を想起させる。

“甚”

“甚”は2例用いられている。

満洲語では、副詞 dembei (極めて、実に) に対応するもの、asuru (甚だ、大いに) に対応するものが各1例である。

- (1) 甚覺無干的告訴了 (8a4) 〈dembei〉
- (2) 早以告訴不大甚好 (10a1) 〈asuru〉

8.2 時間

8.2.1 過去

“從前”

“従前”は1例用いられている。

満洲語では副詞 *seibeni* (昔, 以前) が対応する。

- (1) 従前爲什麼告訴 (5a6) 〈*seibeni*〉

“起初”

“起初”は1例用いられている。

満洲語では、名詞 *fukjin* (創始, 始まり) が与位格語尾 *-de* を伴う形に対応する。

- (1) 起初爲什麼不告訴 (5a1-2) 〈*fukjin de*〉

“起先”

“起先”は1例用いられている。

満洲語では、名詞 *jokson* (始め, 当初) が与位格語尾 *-de* を伴う形に対応する。

- (1) 起先想敢告訴了吧 (5b1) 〈*jokson de*〉

“早以”

“早以”は1例用いられている。

満洲語では副詞 *aifini* (早くに, とくに) が対応する。

- (1) 早以告訴不大甚好 (10a1) 〈*aifini*〉

“原來”

“原來”は2例用いられ, うち1例は単独で用いられている。

満洲語では、いずれも副詞 *dule* (本来, もともと) が対応する。

- (1) 原來再四的告訴了呢 (5b3) 〈*dule*〉
(2) 原來之下用呢呢啊之字 (16b1) 〈*dule*〉

(2) は満洲語の呼応関係について解説した部分で用いられており, “原來”と *dule* が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“已然”

“已然”は2例用いられ, 1例は単独で“已然了”の形を取る。

満洲語では、接続後置詞 *dahame* (～にしたがって, ～なので) に対応する1例のほか, “已然了”は動詞 *ombi* (なる, できる) の連体過去形 *oho* が名詞化語尾 *-ngge* を伴う *ohongge* (なったもの) に対応する。

- (1) 已然告訴了 (6a5) 〈*dahame*〉

(2) 俱已然了的之意 (19a5) 〈ohongge〉

(2) は -hangge/hengge 等の意味を解説した部分に用いられている。

“已”

“已”は3例用いられ、いずれも満洲語の文法を解説する際に用いられている。

満洲語では、“已畢”と“已在”が動詞終止完了形の -habi/hebi に、“已了”が ombi の連体過去形 oho に対応する。

(1) 已畢 (16b5) 〈habi〉

(2) 已在之字 (16b6) 〈hebi〉

(3) 已了之意 (19a6) 〈oho〉

(1) と (2) は満洲語の呼応関係について解説した部分、(3) は連体過去形語尾 -ha/he/ho 等の意味を解説した部分で用いられている。

“纔”

“纔”は3例用いられている。

満洲語では、副詞 teni (さっき、やっど) に対応するものが2例、名詞 jaka (もの、ところ) に対応するものが1例である。

(1) 因告訴了纔知道 (8b6) 〈teni〉

(2) 纔告訴了麼 (4b4) 〈jaka〉

満洲語 jaka には動詞の不定形 -me に後置して「～してすぐ」を表す接続後置詞の用法があるが、ここでの使い方はそれと異なる。

“將纔”

“將纔”は2例用いられており、うち1例は単独で用いられる。

満洲語では、副詞 teike (さっき、今しがた) に対応するものが1例、teni に対応するものが1例である。

(1) 將纔告訴了 (4b4-5) 〈teike〉

(2) 乃將纔之意 (20b3) 〈teni〉

(2) は満洲語の接続後置詞 saka 及び jaka の意味を解説した部分で用いられており、“將纔”と teni が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“將將”

“將將”は“將將的”の形で1例用いられている。

満洲語では、副詞 *arkan* (ちょうど, どうやら) に動詞 *sembi* の不定形 *seme* が後続した形が対応する。

- (1) 將將的告訴了 (9b4) 〈*arkan seme*〉

8.2.2 現在

“現今”

“現今” は 2 例用いられている。

満洲語ではいずれも名詞 *te* (今, 現在) が対応する。

- (1) 現今又讀満洲書呢 (4a2) 〈*te*〉

“如今”

“如今” は 2 例用いられている。

満洲語ではいずれも名詞 *te* が対応する。

- (1) 如今又念助語書呢 (4a4) 〈*te*〉

“今”

“今” は 1 例用いられている。

満洲語では名詞 *te* が対応する。

- (1) 今既然問 (23b2) 〈*te*〉

“正然”

“正然” は 1 例用いられている。

満洲語では副詞 *jing* (ちょうど, まさに) が対応する。

- (1) 正然告訴 (7a6) 〈*jing*〉

8.2.3 未来

“將”

“將” は 3 例用いられ, うち 1 例は単独で用いられる。

満洲語では, 接続後置詞 *saka* (～するとすぐ, ～するや否や) に対応するもの, 動詞の連用未然形 *-nggala* に対応するもの, 副詞 *teni* に対応するものが各 1 例である。

- (1) 將告訴 (6a3) 〈*saka*〉
- (2) 告訴將完了氣了 (11a1) 〈*wajinggala*〉
- (3) 開口乃是將意 (18a4) 〈*teni*〉

(3) は動詞不定形 **-me** の意味を解説した部分で用いられている。

“後頭”

“後頭”は1例用いられており、時間的な意味で使われる。
満洲語では副詞 **amala** (後で, のちに) が対応する。

- (1) 要後頭告訴 (7a1) 〈amala〉

8.2.4 不定時

“常”

“常”は1例用いられている。
満洲語では副詞 **daruhai** (いつも, 常に) が対応する。

- (1) 常告訴 (7a4) 〈daruhai〉

“常常”

“常常”は1例用いられている。
満洲語では副詞 **daruhai** が対応する。

- (1) 乃常常不斷之意 (20b5) 〈daruhai〉

この例は動詞の連用持続形 **-hai/hei/hoi** の意味を解説する部分で用いられている。

“暫且”

“暫且”は1例用いられている。
満洲語では副詞 **taka** (しばし, しばらく) が対応する。

- (1) 暫且告訴了 (7b5) 〈taka〉

“忽然”

“忽然”は1例用いられている。
満洲語では副詞 **gaitai** (にわかには, 突然) が対応する。

- (1) 忽然告訴反到不好 (8b3) 〈gaitai〉

“忽而”

“忽而”は1例用いられている。
満洲語では副詞 **gaitai** が対応する。

- (1) 忽而這樣告訴 (11b2-3) 〈gaitai〉

“猛然”

“猛然”は1例用いられている。

満洲語では副詞 *gaitai* が対応する。

- (1) 猛然跼起告訴 (11a3) 〈*gaitai*〉

8.2.5 不変

“仍”

“仍”は4例用いられている。

満洲語では、副詞 *kemuni* (常に, なお) に対応するものが3例, 名詞 *an* (通常, 普通) が属格/道具格語尾 *-i* を伴う形に対応するものが1例である。

- (1) 仍待多學者教正 (23b4) 〈*kemuni*〉
- (2) 第二字仍用平字 (26a4) 〈*kemuni*〉
- (3) 仍説原韻 (14a1) 〈*an i*〉

“仍舊”

“仍舊”は1例用いられている。

満洲語では *an i* の形が対応する。

- (1) 別的頭兒上仍舊諗衣 (19a1) 〈*an i*〉

“還”

“還”は3例用いられており, うち否定の“未”を伴う“還未”の形が1例である。

満洲語では、副詞 *kemuni* に対応するものが2例, *hono* (まだ, なお) に対応するものが1例である。

- (1) 還未告訴 (4b6) 〈*kemuni*〉
- (2) 還可照原字韻説者 (13b6) 〈*kemuni*〉
- (3) 還告訴得 (9a5) 〈*hono*〉

8.2.6 重複

“又”

“又”は18例用いられ, うち1例は単独で用いられる。

満洲語では、副詞 *geli* (また, なお) に対応するものが17例, 特に対応する語彙を持たないものが1例である。

- (1) 現今又讀滿洲書呢 (4a2) 〈*geli*〉

- (2) 不告訴而又告訴 (11a2) 〈geli〉
- (3) 而且之下用又字 (16a5) 〈geli〉
- (4) 安慰平撫又平地之處 (22b4) 〈necihiyembi〉

(3)は満洲語の呼応関係について解説した部分で用いられており、“又”と geli が等価という認識を示すものであろう。(4)は動詞 necihiyembi (ならず、平らにする)に複数の漢語語彙を対応させたものである。

“再”

“再”は7例用いられている。

満洲語では、すべての例で副詞 jai (再び、また)が対応する。

- (1) 再單話上 (14a2) 〈jai〉
- (2) 再遇此五字上之比字諗摸之處 (15b5-6) 〈jai〉
- (3) 再話之首用何等字 (23a4-5) 〈jai〉

8.3 範囲

8.3.1 単独

“只是”

“只是”は2例用いられており、うち1例は名詞に先行する。

満洲語では、副詞 urui (常々、専ら)に対応するもの、imata (皆、すべて)に対応するものが各1例である。

- (1) 只是愛告訴 (5b4) 〈urui〉
- (2) 只是你告訴麼 (6b2) 〈imata〉

“但只”

“但只”は“但只寡”の形で1例用いられている。

満洲語では副詞 damu (ただ、わずかに)が対応する。

- (1) 但只寡告訴 (5b2) 〈damu〉

なお、満洲語の原文は damu alarai teile (ただ告げるだけだ)であり、damu と接続後置詞 teile が呼応した形を取る。

8.3.2 個別

“另外”

“另外”は1例用いられているが、“的”によって名詞化されている。

満洲語では形容詞 heturi (脇道の、余計な)が対応する。

- (1) 正竟的不告訴另外的告訴作什麼 (10a6) 〈heturi〉

8.3.3 相互

“相”

“相”は3例用いられており、いずれも“相干”の形を取る。

満洲語では、特に副詞としての“相”に対応する語彙は見られない。

- (1) 雖告訴不相干 (5b3-4) 〈hūwanggiyarakū〉
- (2) 告訴什麼相干 (9b5) 〈dalji〉

上の(1)は「差し支えない」、(2)は「関わり」の意味を表す。

8.3.4 共同

“一同”

“一同”は4例用いられ、うち3例は“於～一同”の形を取り、1例は単独で用いられる。

満洲語では、“於～一同”の3例が形容詞 *adali* (同じ、～のよう) に対応し、単独で用いられる1例が接続後置詞 *emgi* (～と共に、～と一緒に) に対応する。

- (1) 於阿哦衣握五字一同不用在話首 (28a4) 〈*adali*〉
- (2) 於陽字一同用 (28b1) 〈*adali*〉
- (3) 一同 (17b3) 〈*emgi*〉

(3)は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており、“一同”と *emgi* が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“齊”

“齊”は1例用いられている。

満洲語では動詞語幹形成接尾辞 *-ndu* (共に～する、～しあう) が対応する。

- (1) 衆齊告訴 (5a1) 〈*alandumbi*〉

上は *alambi* (告げる) から派生した *alandumbi* (一斉に言う) である。

“一齊”

“一齊”は2例用いられ、1例は“一齊都”の形を取り、1例は単独で用いられる。

満洲語では、いずれも副詞 *sasari* (共に、一斉に) に対応する。

- (1) 一齊都告訴 (5a1) 〈*sasari*〉
- (2) 乃一齊彼此之意 (20a1) 〈*sasari*〉

(1) は後続の動詞も *alandumbi* (一齊に言う) の形を取る。(2) は語幹形成接尾辞 *-ndu* の意味を解説した部分で用いられており, “一齊”と *sasari* が等価と認識されていたことを示すものであろう。

8.3.5 統括

“全然”

“全然”は2例用いられている。

満洲語では、副詞 *leksei* (みな, 全部) に対応するもの、動詞 *wacihiyambi* (完結する, 完成する) の不定形 *wacihiyame* (尽く, 完全に) に対応するものが1例である。

- (1) 全然告訴了 (6b4-5) 〈*leksei*〉
- (2) 全然告訴狠好 (9b6) 〈*wacihiyame*〉

“全”

“全”は1例用いられている。

満洲語では副詞 *yooni* (全部, すべて) に対応する。

- (1) 把自有以來的全告訴了 (8b5) 〈*yooni*〉

“都”

“都”は5例用いられ, うち1例が“一齊都”の形を取る。

満洲語では, “一齊都”の例を除き, 副詞 *gemu* (みな, すべて) に対応するものが3例, *yooni* に対応するものが1例である。

- (1) 阿哥你所學的話都記得麼 (4a5) 〈*gemu*〉
- (2) 阿哥你都曉得麼 (12a4) 〈*gemu*〉
- (3) 都曉得了 (22b6) 〈*yooni*〉

“也”

“也”は1例用いられている。

満洲語では副詞 *inu* (また, ~も) に対応する。

- (1) 也可說給聽麼 (21b6) 〈*inu*〉

“亦”

“亦”は4例用いられている。

満洲語では, すべて副詞 *inu* に対応する。

- (1) 於他話亦能照此調轉着說得來 (11b4-5) 〈*inu*〉

- (2) 亦次寫出 (14a3) 〈inu〉

“總”

“總”は1例用いられているが，“總而言之”の固定フレーズである。
満洲語では副詞 *eiterecibe* (大抵, 総じて) が対応する。

- (1) 總而言之假歸告訴了中什麼用 (11a5-6) 〈*eiterecibe*〉

8.4 情態

8.4.1 真確

“一定”

“一定”は1例用いられているが，“之”を伴い連体修飾語となる。

満洲語では動詞 *toktombi* (定まる, 定着する) の連体過去形 *toktoho* が対応する。

- (1) 皆一定之韻 (13a1) 〈*toktoho*〉

“必定”

“必定”は1例用いられている。

満洲語では副詞 *urunakū* (必ず, 決まって) が対応する。

- (1) 必定告訴 (5a4-5) 〈*urunakū*〉

8.4.2 趨勢

“自然”

“自然”は2例用いられている。

満洲語では、副詞 *esi* (当然, もちろん) に対応するもの、三人称代名詞の属格形 *ini* に形容詞 *cisui* (自らの, 独自の) が後続した *ini cisui* (自然に, おのずから) に対応するものが各1例である。

- (1) 自然告訴 (7a2) 〈*esi*〉
(2) 乃自然動用之意 (18b2) 〈*ini cisui*〉

8.4.3 帰着

“果然”

“果然”は5例用いられ、うち1例は“果然麼”の形で単独で用いられている。

満洲語では、接続後置詞 *mujangga* (～の通りだ, ～に違いない) に対応するものが2例、副詞 *yala* (本当に, 果たして) に対応するものが2例、

形容詞 **unenggi** (本当だ, 真実だ) に対応するものが 1 例である。

- (1) 果然告訴麼 (5b6) 〈**mujanggao**〉
- (2) 果然麼 (16b3) 〈**mujanggao**〉
- (3) 果然因告訴了啊 (9a1) 〈**yala**〉
- (4) 果然記得 (4a6) 〈**unenggi**〉

(2) は満洲語の呼応関係について解説した部分で用いられており, “果然” と **mujangga** が等価と認識されていたことを示すものであろう。

8.4.4 決定

“索性”

“索性” は 1 例用いられている。

満洲語では副詞 **inemene** (どのみち, 結局) が対応する。

- (1) 索性告訴了 (6a5) 〈**inemene**〉

“緊只”

“緊只” は 3 例用いられている。

満洲語では, 副詞 **emdubei** (ひたすら, ただ) に対応するものが 2 例, 動詞 **hailan gaimbi** (困らせる, 煩わせる) の連用不定形に対応するものが 1 例である。

- (1) 緊只告訴麼 (6b2) 〈**emdubei**〉
- (2) 乃緊只作爲之意 (21a4-5) 〈**emdubei**〉
- (3) 雖緊只逼勒告訴不中用 (11a6) 〈**hailan gaime**〉

(2) は満洲語の動詞語幹形成接尾辞 **-ša/še/šo** 等の意味を解説した部分で用いられている。

8.4.5 発動

“特”

“特” は 2 例用いられており, うち 1 例は“特特的”の形を取る。

満洲語では, “特特的”の例が副詞 **cohotoi** (特に, ことさら) に対応し, 他の 1 例は副詞 **cohome** (特に, わざわざ) に対応する。

- (1) 特特的告訴 (7a6) 〈**cohotoi**〉
- (2) 特有拿手告訴 (10b6) 〈**cohome**〉

いずれも動詞 **cohombi** (任命する) から派生した形式と思われるが, 原義との関係は不明である。

8.4.6 相反

“反”

“反”は1例用いられている。

満洲語では副詞 **nememe** (ますます, かえって) が対応する。

- (1) 反加告訴 (7a4) 〈nememe〉

“反到”

“反到”は1例用いられている。

満洲語では副詞 **elemangga** (かえって, 反対に) が対応する。

- (1) 忽然告訴反到不好 (8b3) 〈elemangga〉

“可”

“可”は1例用いられており, “可不是什麼”の形を取る。

満洲語では **waka ci aina** が対応し, この表現は「違うなら何だ」を意味するものと思われる。

- (1) 告訴過的可不是什麼呢 (11b2) 〈waka ci aina〉

8.4.7 推測

“恐”

“恐”は1例用いられている。

満洲語では動詞の懸念形語尾 **-rahū** が対応する。

- (1) 恐提着告訴 (5b6) 〈alarahū〉

“恐怕”

“恐怕”は2例用いられており, うち1例は単独で用いられる。

満洲語では, いずれも文末後置詞 **ayoo** (～ではないか, ～と恐れる) が対応する。

- (1) 恐怕告訴 (5b6) 〈ayoo〉

- (2) 恐怕 (17b2) 〈ayoo〉

(2)は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており, “恐怕”と **ayoo** が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“或者”

“或者”は4例用いられている。

満洲語では, 副詞 **eici** (あるいは, ひょっとして) に対応するもの, ほ

ぼ同義の embici (それとも, あるいは) に対応するものが各 1 例である。

- (1) 或者告訴的上頭麼 (5b2) 〈eici〉
- (2) 或者告訴過的是 (8b2) 〈embici〉

その一方, 形容詞 ememu (ある, とある) が名詞化語尾 -ngge を伴う ememungge (ある者) に対応するもの, 名詞 urse が後続する ememu urse (ある人々) に対応するものも各 1 例である。

- (3) 或者告訴的有理 (8b1) 〈ememungge〉
- (4) 或者告訴過的不是 (8b1) 〈ememu urse〉

(3) と (4) は“或者”の名詞としての用法を反映すると思われる。

“或”

“或”は 2 例用いられている。

満洲語ではいずれも副詞 eici が対応する。

- (1) 或用少陰字 (26a4) 〈eici〉

8.5 否定

8.5.1 古代語

“無”

“無”は 10 例用いられており, うち名詞性の成分が後続する“無+N”の形が 7 例, 動詞性の成分が後続する“無+V”の形が 2 例, “無奈何”が 1 例である。

満洲語では, “無+N”の 7 例のうち 6 例が否定詞 akū に対応し, 1 例は特に対応する語彙を持たない。

- (1) 並無告訴之處 (5a1) 〈akū〉
- (2) 書上無所註 (23b2) 〈akū〉
- (3) 雖告訴無涉 (9b6) 〈daljakū〉
- (4) 告訴過的無頭絮 (9b3) 〈lulu lala〉

形容詞 daljakū (関係ない, 関わりない) は dalji akū の縮約と考えられる。lulu lala (だらだら) は擬態語である。

“無+V”の 2 例はいずれも動詞過去形の否定形式 -hakū に対応する。

- (5) 這是無告訴的麼 (5a2) 〈alahakūnggeo〉
- (6) 那樣告訴無依 (9a3) 〈ohakū〉

“無有”

“無有”は 3 例用いられ, うち 1 例は名詞性の成分が後続し, 他の 2 例

は単独で用いられる。

満洲語はいずれも否定詞 *akū* が対応する。

- (1) 無有不告訴的 (5a3) 〈*akū*〉
- (2) 乃無有之意 (19b4) 〈*akū*〉
- (3) 此無有又有不之意 (19b4) 〈*akū*〉

(2) は動詞連体過去形の否定形式 *-hakū/hekū* 等の意味を解説した部分であり、(3) は *akū* そのものの意味を解説した部分である。いずれも、“無有”と *akū* が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“莫非”

“莫非”は1例用いられている。

満洲語では副詞 *maka* (果たして～か, はて～か) が対応する。

- (1) 莫非告訴過來着麼 (11b1) 〈*maka*〉

“未”

“未”は6例用いられており、うち1例は単独で用いられ、1例は“未然”という文法術語として用いられる。“還未”の形が1例ある。

満洲語では、後置詞 *unde* (まだ～ない, ～はまだだ) に対応するものが4例、*onggolo* (～より前に, ～以前) に対応するものが1例である。

- (1) 還未告訴 (4b6) 〈*unde*〉
- (2) 乃接話未完之了意 (18a3) 〈*unde*〉
- (3) 未之上用 (17b2) 〈*unde*〉
- (4) 未發覺之前告訴了不中用 (10b4) 〈*onggolo*〉

(3) は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており、“未”と *unde* が等価と認識されていたことを示すものであろう。

なお、“未然”には *unde* が名詞化語尾 *-ngge* を伴う形が対応する。

- (5) 俱未然的之意 (19a4) 〈*undengge*〉

8.5.2 現代語

“没”

“没”は4例用いられ、いずれも動詞性の成分が後続する。

満洲語ではいずれも動詞連体過去形の否定形式 *-hakū* が対応する。

- (1) 至到此時没告訴麼 (4b6) 〈*alahakūn*〉
- (2) 至今没告訴 (4b6) 〈*alahakū*〉

以上から見ると、“無”と“没”は一部で用法が重なり、“没”と“未”

では意味が異なると認識されていたことがわかる。

“別”

“別”は2例用いられ、うち1例は単独で用いられる。

満洲語ではいずれも副詞 **ume** (～するなかれ, 決して～するな) が対応する。

- (1) 別告訴 (5a3) 〈ume〉
- (2) 別之下用拉勒羅等字 (16a1) 〈ume〉

(2)は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており, “別”と **ume** が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“不用”

“不用”は2例用いられている。

満洲語では, 動詞 **joombi** の命令形に由来する **joo** (十分だ, もうよい) に対応するもの, **nakambi** (やめる, 止める) の命令形 **naka** に対応するものが各1例である。

- (1) 若不不用告訴 (6b1) 〈joo〉
- (2) 不用狠告訴 (6b1) 〈naka〉

“未必”

“未必”は1例用いられている。

満洲語では副詞 **ainahai** (どうして, どうしてまた) が対応する。

- (1) 未必告訴了呢 (5b3) 〈ainahai〉

(待続)